

令和3年度 横浜カレッジ 自己評価表

1. 学校の教育目標

- (1)感性の向上
- (2)高度な技術力の習得
- (3)豊かな人間性の涵養
- (4)プレゼンテーション能力の育成

2. 令和3年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

項目	実施状況	評価
オンライン教材の工夫と活用の最大化で授業品質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・オンタイムで行ったオンライン授業をビデオ録画や授業教材として作成した動画を、令和3年度より導入したLMS(Learning Management System)のスタログ上にすぐに公開。欠席者への補講や復習用教材として活用し、学習内容の定着に寄与。 ・スタログの仕組みを活用しマイクロラーニングとなるよう、工程ごとの手技動画を作成。隙間時間を活用した反復学習が促進され、検定試験の合格率向上につながった。 	○
作業の平準化、標準化、効率化、最大化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・LMS(Learning Management System)のスタログが導入され、学生個々の学習状況や出欠席状況が可視化された。システムを通じた教職員間の情報共有が容易になり、効率化につながった。 ・一方で、日々の学習活動で取得した学習履歴などの教育データについて、活用方法や教育効果を高めるための仕組みづくりが継続課題。 ・令和3年度より学科横断で取り組む共通科目（「クラスアクティビティ」、「サービストレーニング」、「ITリテラシー講座」）を導入。共通科目とすることで、授業内容の標準化が図られた。また、令和4年度に向けて、全学科の学生を対象にしたオンデマンド型の資格取得講座を3講座「サービス接客検定2級講座」「アロマセラピー検定講座」「ネットショップ実務士補検定講座」を計画し、準備を進めた。 	○
教務部の組織的、機動的運営の構築、推進	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は、従来の校務分掌にマネジメント運営グループを新設。教職員一人ひとりが成果の見える化を意識して業務に取り組んでいる。 ・また、従来からの校務分掌についても業務内容や担当者を定期的に見直し、業務が属人化しないよう組織的に対応する措置を図っている 	△

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1
・ 学校における職業教育の特色は明確か	4 3 2 1
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 3 2 1
・ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に 周知されているか	4 3 2 1
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4 3 2 1

① 課題

ファッション・美容・ブライダルの各業界においても DX や SDGs が進んでいる。今後の VUCA 時代に活躍できる発想力豊かな人材の育成が課題。

② 今後の改善方策

本学園グループ姉妹校を横断したプロジェクト活動を通じて、学生が主体的に学び合える教育内容や環境の整備を進める。

③ 特記事項

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1
・ 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1
・ 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4 3 2 1
・ 人事、給与に関する制度は整備されているか	4 3 2 1
・ 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4 3 2 1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 2 1
・ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 3 2 1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 2 1

① 課題

本学園グループ姉妹校と合同で、LMS(スタログ)を導入。教育データの可視化や学生データ管理など業務効率化が図られた一方、蓄積した教育データを効果的に活用することが課題。

② 今後の改善方策

本学園グループ姉妹校を横断したプロジェクト活動を通じて、収集したデータの活用方法や教育効果を高めるための仕組みを継続して検討する。

③ 特記事項

(3). 教育活動

a. ファッションライフデザイン学科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

アパレル業界では、リアルとデジタルの融合が急速に進んでいる。アパレル業界のDX対応を牽引する人財や、感性とテクノロジーを結び付けられる技術力のある人財を育成することが課題。また、ファッション産業が環境に与える負荷を理解し、課題製作において自分の取り組みとして実践できる教育が必要。

② 今後の改善方策

令和4年度より、産学連携による3Dモデリングの授業を導入するための準備を行った。アパレル業界の新たな職種として注目される3Dモデリストの指導者を学内で養成し、独自の教育プログラムを開発する。アパレル業界の今日的課題に触れる授業を行い、課題製作における再生素材の活用やアップサイクル等、実践的な取り組みを取り入れる。

③ 特記事項

継続してエントリーしている「第18回ビジネスコンペティション」において、「マーケティング賞」、「アイデア賞」を受賞。

b. ファッションビジネス科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

アパレル業界のIT化やDX等、リアルとデジタルの融合が急速に進んでいるため、従来からの業界に必要な技術や知識に加え、ITやDXなどの新たな技術に対応する知識を習得させる授業内容の構築が必須。

② 今後の改善方策

IT技術を活用した販売・接客技術を身につけるため、授業内容を見直し、Webショップの構築から販売までを実践できる内容とする。

③ 特記事項

産学連携授業の一環で横浜ビーコルセアーズとの商品企画を実施。ファン向け物販商品としてオリジナルキャップのデザインを担当した。

c. ブライダル科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

コロナ禍の影響もあり、引き続きブライダル業界への就職環境が厳しい状況にある。ブライダル業界の中に優秀な人材を輩出するため、継続的に教育内容の見直しを行うことが課題。

② 今後の改善方策

イベント制作、現場実習、インターンシップを通して業界理解を深めるためのカリキュラムを再構築する。
また、卒業生の就職先での活躍状況などを共有し、業界就職への目標・意欲向上に繋げる。

③ 特記事項

令和3年度より、2年次にプライダルコーディネート技能検定2級を目指せる体制を整え、専門学校で初めての2級合格者を輩出した。

d. ジュエリー&アクセサリー科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

令和3年度の卒業生をもって、学科廃止。

e. ビューティーコーディネーター科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 3 ② 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

前年に引き続きコロナ禍のため、インターンシップ先が不足しているため、インターンシップ提携先の確保が課題。また、現場経験不足を補うため、学生が成長を実感し就職に繋がるスキルを習得できる実践的なカリキュラムの構築が課題。

② 今後の改善方策

産学連携企業とインターンシップの新規開拓を行う。また、就職対策の一環として、自己表現力強化のための取組みを行う。なお、コロナ禍の中で過去2年開催を見送った学生サロンについて、令和4年度は、運営方法を見直し開催予定。

③ 特記事項

f. ビューティースタylist科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 ③ 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

コロナ禍において外部セミナーや実務実習などへの参加の機会が減少したため、今後は体系的な実施に向けたカリキュラムを整えることが課題。

② 今後の改善方策

産学連携企業だけでなく、多数の協力サロンを開拓し、実務実習が可能な機会の創出に努めていく。

③ 特記事項

ヘアドネーションの取組みについては、姉妹校の横浜実践看護専門学校と連携して、継続実施できた。

(4). 教育環境

a. ファッションライフデザイン学科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

コロナ禍で少なくなっていたインターンシップについて、新たな受け入れ先の確保と長期インターンシップの開拓が必要。

② 今後の改善方策

インターンシップの受け入れ先企業の新規開拓を図る。また、授業の一環として取り組んでいる産学連携プロジェクトの内容をブラッシュアップする。

③ 特記事項

本学科およびファッションビジネス科では、ユニフォーム企業より、デジタルパンフレット用のユニフォームのコーディネート・撮影等の連携依頼を受け、令和4年5月より取り組みをスタートさせる。

b. ファッションビジネス科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 (2) 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

オンライン授業との併用など時間割を工夫し、学生が余裕をもって実習が行えるスペースの確保に努めているものの、スペースの確保は継続的な課題。
スタイリスト志向者への定期的なインターンシップの機会の提供。

② 今後の改善方策

令和3年度は、スタイリストインターンシップからの就職実績が複数出た。引き続き、非常勤講師（現役スタイリス）や卒業生ネットワークによる撮影、雑誌等の仕事別のインターンシップの開拓を行う。

③ 特記事項

本学科およびファッションライフデザイン学科では、ユニフォーム企業より、デジタルパンフレット用のユニフォームのコーディネート・撮影等の連携依頼を受け、令和4年5月より取り組みをスタートさせる。

c. ブライダル科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 (2) 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

産学連携イベント制作において、リハーサルや練習を行うスペース(教室)が不足している。

② 今後の改善方策

セメスターを活用した時間割とし、教室を有効活用していく。また、放課後などに、本学園姉妹校の施設・設備等も有効に活用する。

③ 特記事項

単位認定インターンシップでは、昨年度に引き続きコロナ禍の影響で、婚礼の延期・婚礼実施数の減少等により、受け入れ件数の削減が見られた。
次年度は、卒業生ネットワークを活かし、インターンシップ先の確保を強化していく。

d. ジュエリー&アクセサリー科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	(4) 3 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

令和3年度の卒業生をもって、学科廃止。

e. ビューティーコーディネーター科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 (2) 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 3 (2) 1

① 課題

業務内容が、直接お客様と肌を触れ合う可能性が高いため、新型コロナウイルス感染状況を鑑み、1年次に実施している全員参加型インターンシップは中止とした。
在籍数増加により1人当たりの実習スペースの確保が厳しい状況。

② 今後の改善方策

インターンシップ受け入れ企業に対して、実施時期・業務内容・感染対策の見直しを依頼し、令和4年度に再開予定。併せて、新規インターンシップ先の開拓を行う。

③ 特記事項

f. ビューティースタylist科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 3 (2) 1

① 課題

実習教室のAV機器の環境を整える必要がある。また、使用教室によっては、空調設備など健康面に考慮した環境が必要。

② 今後の改善方策

モニターを導入するなど設備面の強化を実施予定。

③ 特記事項

(5). 学修成果

a. ファッションライフデザイン学科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 (3) 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(4) 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	(4) 3 2 1

① 課題

コロナ禍の影響で求人数は減少したものの、専門職・総合職への就職内定は例年通りの実績。技術職の採用状況の厳しさは変わらず、実技試験、課題提出などの採用試験対策の強化が必要。

② 今後の改善方策

「3D モデリング」授業導入により、新たな専門職として職種の幅を広げた就職活動を支援。産学連携にて学生のスキルと経験値を向上させ、就職企業の拡大を図る。

③ 特記事項

b. ファッションビジネス科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 3 (2) 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 (3) 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(4) 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	(4) 3 2 1

① 課題

就職環境がコロナ禍前の状況にまで回復しておらず、総合職、販売員の就職先の確保は継続的な課題。また、就職活動の長期化に伴い、学生の就職活動へのモチベーションを上げる指導や職種・業種などの視野を広げるための指導が必須。

② 今後の改善方策

学生個々の就職活動状況を LMS と連動させて把握し、教職員全体で一人ひとりの就職活動を支援できる体制を整える。また、LMS で可視化した学習状況や出欠席状況などから、変化の兆しのある学生と早期にコミュニケーションを図り退学率低減に取り組む。

③ 特記事項

c. ブライダル科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 ② 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	④ 3 2 1

① 課題

退学者数が多かった点が課題。イベント等の学科主軸イベントの規模縮小、業界の将来性に不安を感じ分野変更、目的意識の低下など、例年では見受けられなかったケースが、コロナ禍の影響で見受けられた。

② 今後の改善方策

定期的な面談の実施回数を増やすなど個別対応を強化しつつ、教員間での情報共有とサポート体制を再構築。

③ 特記事項

ブライダルコーディネイト技能検定 3 級合格率 100%を達成。また、同検定の 2 級に 2 年生 1 名が合格し、全国の専門学校でも初めての合格実績を出すことができた。
サービス接遇検定準 1 級の合格率は、98.8%で、公益社団法人実務技能検定協会から団体優秀賞、個人最優秀賞の表彰を受けた。

d. ジュエリー&アクセサリー科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・退学率の低減が図られているか	(4) 3 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(4) 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 (3) 2 1

① 課題

()

② 今後の改善方策

()

③ 特記事項

(令和3年度の卒業生をもって、学科廃止。)

e. ビューティーコーディネーター科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	4 3 (2) 1
・資格取得率の向上が図られているか	(4) 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 (3) 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 (3) 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 (3) 2 1

① 課題

(化粧品業界の就職活動が昨年度から引き続き、採用中止・縮小の企業が多く、希望職種への内定率が低迷した。視野を広げた就職活動が課題。)

② 今後の改善方策

1 年次から特別講師を招き、就職セミナーを校内で実施。企業研究・自己分析・エントリーシート・模擬面接を強化し、希望職種の内定率のアップを目指す。

③ 特記事項

f. ビューティースタylist科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 ③ 2 1

① 課題

コロナ禍以前の就職活動スケジュールに戻りつつあり、採用説明会も活発に行われているため、早期活動がしやすい状況。業種が多様化する中で、学生の職業観をどう育てていくかが課題。

② 今後の改善方策

就職指導とキャリアプラン教育の内容や時期の見直しを実施。また、自発的に動ける人材育成を行いつつ、学生が目的を見失わないよう情報提供を定期的の実施し、退学防止にもつなげる。

③ 特記事項

令和2年度はオンライン開催を余技なくされていたセミナーについて、コミュニケーションやマナー講座などの対面実施や効果的な講座を中心に感染対策を実施しながら対面開催。

(6). 学生支援

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

① 課題

奨学生希望者の増加に伴い、利用希望者にきめ細やかに情報提供を行うため、小グループでの説明会などを開催。今後は説明内容の理解度を高めることが課題。

② 今後の改善方策

校内の掲示板やデジタルサイネージを活用して周知するとともに、説明会等で使用する資料内容を見直す。また、視覚的に確認できる説明用動画コンテンツの導入などを検討する。

③ 特記事項

令和2年度はコロナ禍の影響で中止とした高校生向けキャリア講座(仕事のまなび場、総専協夏季講座、県立高校生学習コンソーシアムとの連携職業講座)については、感染対策を施し、すべて開催した。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 課題

令和2年度に引き続き、コロナ禍の中での活動となったが、オンラインと対面を併用し、進学に必要な情報提供ができた。

② 今後の改善方策

コロナ感染対策を行いつつ、状況に応じて進学に必要な情報提供を Web や SNS、オープンキャンパスなどを通じて発信していく。

③ 特記事項

(8). 財務

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3 準備中・整備中:2、未着手・未整備:1
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

財務状況は、安定しており、継続的な学校運営には問題がない状況である。

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・ 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 ③ 2 1
・ 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

① 課題

平成 25 年度より、自己評価を実施し、学校関係者評価委員会等で意見を聴取し改善には努めているが、校舎・設備・環境に関わる課題や、学生の経済支援については制約もあり、年度内や本校のみの施策では解決しにくいものがある。

② 今後の改善方策

校舎の環境整備については、令和 2 年度より、3 か年計画で充実を図っている。

③ 特記事項

自己評価、学校関係者評価委員会の議事録は、ホームページ上で公開している。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・ 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
・ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1

① 課題

令和 3 年度はコロナの状況を見極めながら、地元プロリーグや地域イベントの活動に参加した。なお、令和 3 年度になり新たに立ち上げたサークル活動などを通じて、社会貢献や地域貢献の活動の企画から実行までを継続的に行うことが課題。

② 今後の改善方策

③ 特記事項

医療系専門学校 2 校を持つ強みを活かし、新型コロナワクチンの職域接種を 3 回(6 月～7 月、7 月～8 月、2 月～3 月)、対象を、本校生、教職員および家族のみならず、近隣企業等へ幅広く実施した。特に 1 回目、2 回目のワクチン接種は、接種券の配布が遅れる中、いち早く実施できたため、学内の感染抑制に役立つことはもちろん、近隣企業はじめ多くの方々から感謝の言葉が寄せられた。

また、前年度、コロナ禍で中止となった高校生向け講座「仕事のまなび場 (4 講座 99 名参加)」・「総専協夏季公開講座 (2 講座 32 名参加)」、鎌倉湘南地区高校連携講座「ブライダル関連のキャリア教育 22 名参加」などは、感染対策を行いすべて対面にて開催した。

以 上